

授業科目(ナンバリング)	言語と文化(CA207)			担当教員	新藤 照夫		
展開方法	講義	単位数	2単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
言語と文化に関する様々な事項を学ぶことにより、自分たちとは異なる文化圏の人たちの行動や考え方を理解し、交流することができるようになるとともに、様々な観点から分析的に考察する力を身につけることを目指す。							②⑩⑪
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	・言語と文化についての基本的な理論や専門用語を理解し、具体例を挙げて簡潔に説明できる。				・随時試験	20%	
情報収集、分析力							
コミュニケーション力	・授業内学修、授業外学修にて既習事項の理解の確認を行うことができる。				・課題	30%	
協働・課題解決力							
多様性理解力	・異文化間での言語表現の違いやその背景にある文化の影響を認識することができ、具体例を挙げて簡潔に説明できる。				・定期試験 または随時試験	50%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時の学修状況や参加度合は、発表の姿勢や内容をもとに評価する。</li> <li>・課題（ポートフォリオにて3回）を課し、その内容を評価する。</li> <li>・課題に対して、ポートフォリオおよび授業時にフィードバックを行う。</li> <li>・定期試験/随時試験にて、言語と文化に関する基本的な理論や専門用語の知識・理解および異文化間での言語表現の違いとその要因についての知識・理解について評価する。</li> </ul>							
授業の概要							
<p>この授業では、日常生活に身近な様々な言語文化事例を取扱いながら、言語と文化に関する基本的な理論や専門用語についての知識や理解を深めることを目指す。学修した知識をもとに、自らの母語と外国語とのしよみの差異を客観的に捉え、外国語の習得や言語運用能力の向上に活用できるようになることを期待したい。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：資料配付</p> <p>参考書：『言語と文化 ― 言語学から読み解くことばのバリエーション』南雅彦（くろしお出版）</p> <p>指定図書：『ことばと思考』今井むつみ（岩波新書）</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業では、遅刻、無断欠席、途中退室などない積極的な参加を強く求めていく。</li> <li>・授業前には必ず配付資料の予習を行い、授業後には各回の重要事項やキーワードを復習すること。</li> </ul>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法の説明、言語と文化についての導入	・シラバスの確認 ・導入内容の確認、に関するポートフォリオ記入
2	異文化理解について	異文化理解に必要な態度、新たな常識の発見	・資料①の予習 ・異文化理解に関するポートフォリオ記入
3	言語の仕組みの概論	音素・音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論、談話分析、非言語メッセージなど言語の仕組みの概観	・資料②の予習 ・言語の仕組みに関するポートフォリオ記入
4	非言語メッセージ	非言語メッセージの種類、機能	・資料③の予習 ・非言語メッセージに関するポートフォリオ記入
5	文化について	文化の定義、見えない文化、文化と自己、自分化中心主義と他文化相対主義、カルチャーショック	・資料④の予習 ・文化に関するポートフォリオ記入、課題①の解答
6	コンテキスト①	コンテキストとは、コンテキストの種類、Hallの理論	・資料⑤の予習 ・コンテキストに関するポートフォリオ記入
7	コンテキスト②	コンテキストが影響する事例分析	・資料⑥の予習 ・コンテキストの事例分析に関するポートフォリオ記入
8	言語の仕組みの各論	音声学、音韻論、形態論、意味論	・資料⑦の予習 ・言語の仕組み各論に関するポートフォリオ記入
9	言語変化の諸相	変化の進行、歴史的変化、曖昧表現、意味変化、社会方言、地域方言、規範文法と記述文法	・資料⑧の予習 ・言語変化に関するポートフォリオ記入
10	社会言語学	社会方言、言語資料の収集方法	・資料⑨の予習 ・社会言語学に関するポートフォリオ記入、課題②の解答
11	社会方言の事例	日本語に見られる性差、幼児語、若者言葉、接客用語	・資料⑩の予習 ・社会方言事例に関するポートフォリオ記入
12	言語を使い分ける要素	親疎関係、上下関係、ウチ・ソト関係、アコモデーション理論、ポライトネス理論	・資料⑪の予習 ・対話者の影響に関するポートフォリオ記入
13	日本語の人称表現	人称表現の特徴・種類、歴史的変化	・資料⑫の予習 ・日本語の人称表現に関するポートフォリオ記入
14	日本語の敬意表現	尊敬語、謙譲語、丁寧語、曖昧表現	・資料⑬の予習 ・日本語の敬意表現に関するポートフォリオ記入
15	DIEメソッドとまとめ	DIEメソッドによる見えない文化の解釈 言語と文化に関する総復習	・資料⑭の予習 ・総復習、課題③の解答 ・筆記試験の準備
16	定期試験または随時試験	筆記試験またはオンライン試験	・試験の準備学修